

子を戒む（邱濬）

男兒だんじ 志こころざし を 立たつるは 青年せいねん に 在あり

万卷まんがん の 詩書しじよ 旃しを 勉つとむるを 貴たつとぶ

少飲しょういん 貧むさぼ 莫なかれ 儀狄ぎてき の 酒さけ

勇為ゆうい 須すべらく 著つくべし 祖生そせい の 鞭べん

材ざいを 成なすには 務つとめて 師友しゆうに 親したしむに 在あり

行おこない を 保たもつては 祖先そせんを 辱はずかしむるを 休やめよ

但ただ 古今ここん 賢達けんたつの 者ものを 看みるに

聲名せいめい 後人こうじん に 留与りゆうよして 伝つとう

解説 自分の子供を戒めた詩。

男兒立志在青年 萬卷詩書貴勉旃  
少飲莫貧儀狄酒 勇爲須著祖生鞭  
成材務在親師友 保行休教辱祖先  
但看古今賢達者 聲名留與後人傳

語釈 ※萬卷詩書||多数の書物。※旃||これ。そばにあるものを指し示すことば。※儀狄酒||儀狄は夏の時代で、初めて酒を作った人。※勇為||役に立つこと。才能があつて将来の見込みがあること。※祖生鞭||人にさきがけて物事をすること。※成材||ひとかどの人物になること。※賢達||賢人と達人。達人は道理に広く通じた人。

通釈 男兒、立身出世の計を立てるのは青年の時にある。それには万巻の詩書を読むことに勉励することが最良である。酒は少量にとどめて貧り飲んではならぬ。また、正しいことを見ては勇氣をもつて人よりも先に行なうべきである。ひとかどの人物になるには師や友に親しむことが重要だ。いつも行ないを慎んで祖先を辱かしめてはならない。昔から賢人達人と尊敬される人を看ると、みんな名声を留めて、後世の人に伝えられているのである。お前が、このような賢達の士になるよう心掛けてもらいたいものである。